

○ 鑑賞の指導において、根拠をもって批評するなどの言語活動が位置付けられた趣旨は何か。また、その指導における留意点はどのようなことか。

1 言語活動が位置づけられた趣旨

中学校音楽科における音楽教育には、音楽の構造や曲想、味わったことや自分なりに評価したことなどについて、生徒が言葉で表すなどして、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てていくことが求められている。

鑑賞した音楽について「感じたこと」や「その音楽的な理由」を述べるだけでなく、その音楽が「自分にとってどのような価値があるのか」などを考えて言葉で表す活動が、鑑賞の能力をはぐくむことにつながる。こうした能力を育成することは、多様な音楽の特徴をとらえ、理解を深め、音楽文化を尊重する態度を育てることになり、生徒個人にとっても、また、次の時代の音楽文化を一層豊かにしていくことに通じることである。

2 指導上における留意点

指導に当たっては、「この曲を作曲した人に手紙を書こう」「家族の方に紹介するとしたら、どのように伝えるか」といった親しみやすい課題を設定して、対象となる音楽に対して生徒が自分なりに価値判断したことを、その理由を含めて表すことができるようにすることが大切である。